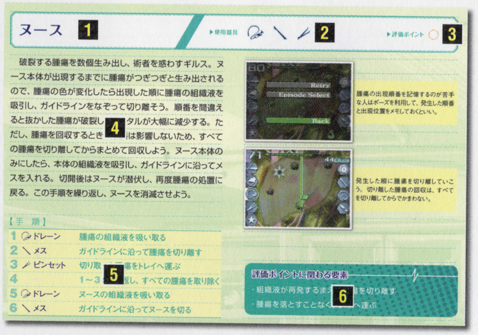
基本術式解説

ここでは、初歩的な術式から対処法まで、すべての術式の処置法と注意点を解説している。Chapter4のオペレーションガイドに進むまえに、しっかりと頭に叩き込んでおきたい。

■基本術式ページの見方



1 名称
術式および病巣の名称。

2 使用器具
その術式で使用する手術器具のアイコンを掲載。各器具のアイコンは、左下の「◎器具アイコン」を参照のこと。

3 評価ポイント
術式および病巣の処置中に評価が表示されるかどうか。
○ 術式のどこかで評価が表示される
△ その患部の術式には評価が表示されないが、症状の悪化や摘出することなどによりべつの患部が必ず発生し、その患部の術式を行なうと評価が表示される
評価は存在しない

4 解説文
術式および病巣の特徴、執刀時の注意点などを詳細に解説している。

5 処置手順
術式および病巣の処置手順。各手順において使用する器具とその使用法を掲載。

6 評価ポイントに関わる要素
術式および病巣の処置中に発生する評価で 最高評価の「Cool」を獲得するために知っておくべき注意事項を掲載。

◎器具アイコン

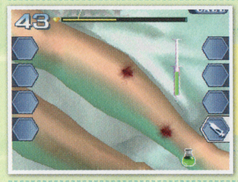
「」レーザー　「⊕」エコー　ルーペ　「」保護テープ
「」ヒールゼリー　「＼」メス　「」ワイヤー
「」ドレーン　「」針と糸　「☆」超執刀
「」ピンセット　「」注射器

■基本術式索引

バイタル回復

▶使用器具　▶評価ポイント —

注射で回復剤(緑色の液体)を吸引して患者に投与する基本術式。注射を患部のどこに挿しても「Miss」にはならず、回復剤を吸引した量によって回復する値は変わる。減少したバイタルを一気に回復するには回復剤を数回投与する必要があるため、バイタル低下を招く術式のまえにあらかじめ行なっておきたい。なお、ヒールゼリーを患部に塗り続けてもバイタルを多少回復させることが可能。回復剤を吸引する時間すらない緊急時や注射器が一定時間使用不可になったときは、ヒールゼリーを合わせて活用するといい。



最大まで回復剤を吸引した場合には、EASYが24で、NORMALとHARDは12まで回復する。



残り時間に余裕があるなら、閉創するまえにバイタルを回復。2秒あれば最大まで吸引した回復剤を1回投与できる。

【手　順】
1 注射器　患部に回復剤を投与する
– ヒールゼリー　患部に塗る

切り傷

▶使用器具　▶評価ポイント

おもにガラス片や骨片など、異物を抜いた痕にできる切り傷の処置。切り傷はヒールゼリーを塗るだけで治療ができるので、複数の切り傷がある場合はまとめて処置したい。



ヒールゼリーのエフェクトが触れて「Ok」と表示されれば処置完了　サッと塗る程度で、念入りに塗る必要はない。

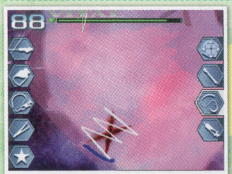
【手　順】
1 ヒールゼリー　患部に塗る

裂傷

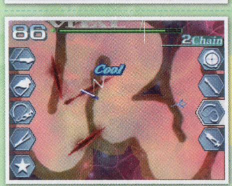
▶使用器具　▶評価ポイント ○

ヒールゼリーでは治療できない裂傷を針と糸を使って縫合する術式。大きくの患者に発生する病巣で、キリアキ(49ページ参照)やビュトス(52ページ参照)といったギルスも生成してくる。また、メスを誤って使用したときに発生する傷もこの術式で処置を行なう。

縫合は傷口に対してジグザグに行なうのだが、「糸の長さを規定の長さ以上使用したか」、「折り返しの左右幅が短くないか」、「折り返しの回数が少なすぎないか」などから評価が決まる。傷口を中途半端に縫った場合は、ミスにはならないがやり直しになる。また、裂傷はふたつ以上重なることがあり、重なった裂傷を縫合すると新しく発生した傷が選ばれやすい。そのため、傷の発生タイミングを覚えておき、評価が下がらないように縫合したい。



裂傷をまとめて縫合しても、一度に処置できるのはひとつまで。傷の上を正しく縫い合わせ、高評価を獲得したい。



裂傷の縫合は、大きく数回折り返して縫うのが基本。ただし、短い裂傷は糸の長さに注意して細かく縫合しよう。

【手　順】
1 針と糸　傷を縫う

評価ポイントに関わる要素
・縫合線の長さが規定以上あり、左右の幅が正確
・縫合の折り返しの回数が規定以上ある